

(2) 本会のメリットについて

<本会のメリット シリーズ> (勧誘時配付)

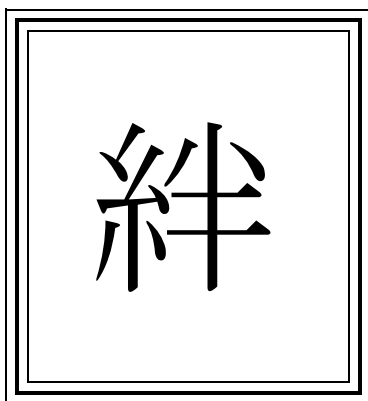
実物はリーフレット版(4ページ・B5版・カラーペーパー)で作成してあります。

東京都退職校長会入会のお誘い

首都東京の教育を担って来られた先生方

長い間お疲れ様でした

この先 東京都退職校長会で共に精励された仲間の
皆さんと 自分らしく 楽しく豊かに活動しませんか
お待ちしております



本会に入会される各支部で活動されている皆さんの声
をご紹介します

令和〇年〇月

東京都退職校長会
同42支部長会
同会員増強プロジェクト・チーム

<本会のメリット その1>

1 着陸そしてソフトランディングへ

～長いこれからの人生をのびのびと～

エンジン全開、生徒や教職員の安心・安全を担保し、先進的な教育活動の展開を図るための学校経営に心血を注いできた毎日。視界良好の日もあれば、暗雲渦巻く乱気流にもまれた時もあった。我が職務を全うし無事着陸したが、これからの我が人生の滑走路をどのように進もうか安堵感と虚脱感が交錯する中、先輩から「急停止は心身の不健康、同業経験者と和やかに過ごすことが健康長寿の秘訣」と誘われ本会に入会した。入会当初は何か居心地悪く堅苦しい思いであったがだんだんに馴染んできて、今は先輩後輩隔てなく趣味の会や懇談会でのびのび楽しく活動している。お陰で生活の張りもある。

(平成25年入会 H・Y氏)

<本会のメリット その2>

2 柵（しがらみ）から絆（きずな）へ

～旧友、新友、みんな親友～

私は現職時代お世話になった先輩校長から、退職後本会への入会を幾度か勧められ「義理」もあり入会しました。総会や懇親会また研修会等、最初はいやいや参加していましたが、数回参加していくうちに挨拶を交わすようになりまた話も弾むようになりました。世代や勤務地また校種などの違いはありますが、同じ仕事をしてきた仲間としての結び付きを感じるようになりました。同期の旧友、年の異なる人との新たな友人と親しく交わり、いろいろな会合でお会いできるのが楽しみとなりました。気さくに声を掛け心を通わす友人は私の宝物です。

(平成20年入会 S・Tさん)

<本会のメリット その3>

3 教育（今日行く）と教養（今日用）

～目的をもって暮らそう～

少子高齢化時代、高齢者への揶揄なのか励ましなのか、新聞、テレビ等の報道記事の中にひととき「あなたは『今日行く(教育)所がありますか。』」などと流行語になったことがある。当時はムツとしたこともあったが、再任用も終わり家で過ごす時間が多くなると、恥ずかしながらあの言葉が身に刺さ。

時宜を得て友人からの誘いもあって本会に入会し、囲碁や散策会に参加させて頂き外出するきっかけとなっている。妻から「今日はどちらへ。今日は何の会ですか。」と問われると明確に、「行先と用件、夕食の有無」を答えることができる。有難い。生活に勇気と自信が湧いてきた。

(平成23年入会 E・A氏)

<本会のメリット その4>

4 会報誌が繋ぐ友愛

～有難い仲間への気遣い～

私は最近年を重ね外出もままならぬ状況になってきました。支部の会合のご案内も頂きますが、参加できずに寂しい思いをしています。しかし、定期的に送られてくる会報誌は私と支部会員を繋ぐ大事なパイプ・絆です。中でも会員の近況報告は何度も読み返します。会員お一人お一人の様子が目に浮かび、安堵したり心配したりしています。

そんな時、私の記事を読んだ知り合いの先輩や同期の友人また後輩からお見舞いや励ましの手紙や電話を頂きました。涙が出るほど嬉しく有難く元気を頂きました。本当に有難うございました。

(平成10年入会 K・Wさん)

<本会のメリット その5>

5 生涯学習時代

～進んで研修会に参加しよう 学び続ける会員は若い～

現場を離れ日々に緊張感が薄れ、生活リズムは守りつつあるが、単調な生活になる。テレビ・ラジオ、新聞、雑誌、専門書、パソコン等で情報や知識を独学で得るものの、何か思考の深まりが浅い。物足りなさを感じていた時、本会の先輩幹部の紹介を受けて、本部や支部の研修会に参加をした。講演を聞きながらメモを取っていると、高血圧症ではないが脳の血流の高まりを覚え、背筋が伸びた。久々に高揚感と充実感を味わった。熱心に聞き入る参加者の方々が神々しく見え、学び続ける人は若い！と感じた。

これからは私もいろいろな会合に進んで参加をしたい。

(平成18年入会 O・G氏)

<本会のメリット その6>

6 超高齢化社会時代だからこそ仲間を増やそう

～年重ねますます慈しみ合う誇り高き集団～

近年「働き方改革」が進められる中、学校の教育現場は「ブラック企業だ」と吹聴されることもあり、東京都教員採用試験の応募者数の減少が危惧されている。さらには現職教職員の管理職志望者の激減も現実化しており、定年退職の年齢を過ぎても再任用として校長職等に留まり活躍されている教職員が増加している。「人手不足」という現実、故に「一億総活躍」のスローガンのもとでは自明の理かもしれない。

しかし、管理職昇任を忌避する内実は、「責任重く厳しい職務に就きたくない。」ということらしい。易きにながれるは人の常ではあるが、「苦悩を通じて歓喜に至る」生き方こそ崇高である。校長職はこれに当たると思う。この職こそ東京の教育を支え前進させてきた大きな力であると確信する。

このようなことは退職後人様にひけらかすことではないが、この自負とプライド

を忘れないよう後進の仲間に伝えたい。

事実、本会の会員・入会者も減りつつあるが、同じ苦勞と喜びを経験した者同士が寄り合って、長く慈しみ合える会にしていきたい。私は、本会の支部の一兵卒として広く退職未加入者に声を掛けていきたい。

(平成15年入会 K・M氏)

◎ 以上、6項目にわたった「本会のメリット1～6」については、入会勧誘の際には「リーフレット版『絆』(東京都退職校長会入会のお誘い)」が「入会申込書」等と一緒に配布されるようになりました。